

# 支承防食工法（透ける沓）

## 透明弾性樹脂形態

品名	用途	外観	配合比（重量比）
スケルシュー-Si (A)	主剤	無色透明油状	100
スケルシュー-Si (B)	硬化剤	無色透明油状	100

- 透明弾性樹脂は（A）剤、（B）剤の2成分を混合することで硬化する液状ポッティング材です。
- 硬化後は透明で内部視認性の良い弾性体となります。
- 硬化前は低粘度であるため、防食母材の細部まで充填可能です。

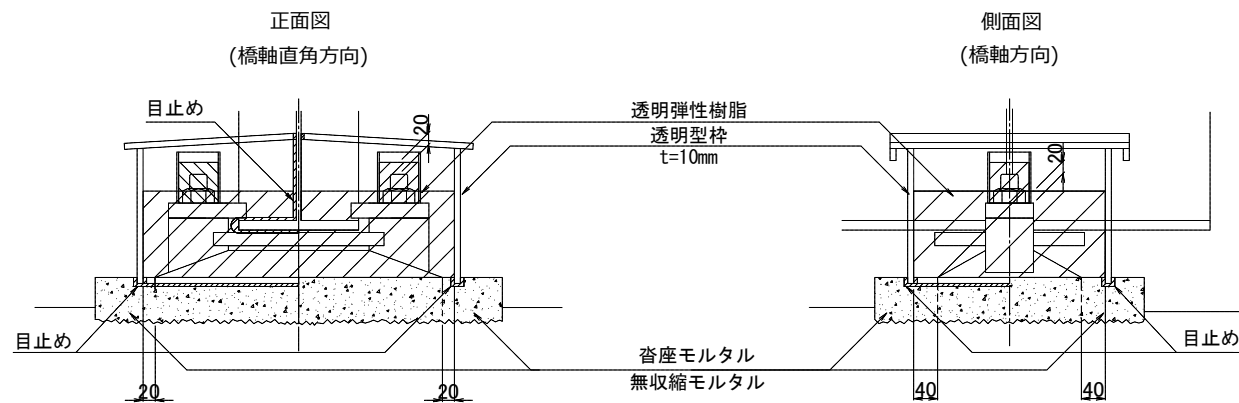
## 一般特性

項目	条件・単位	特性値	参考規格
作業可能時間 (25°C) h	時間	4	
セルフレベルリング性	目視	良好	
タックフリータイム (25°C) h	時間	4	
外観	目視	無色透明	
比重	t/m <sup>3</sup>	0.98	JISK6249
硬さ	針入度	75	JISK6301
最大荷重時の伸び	%	500	JISA1439
引張圧縮繰返し疲労試験	±30%、6000回後	異常なし	JISA1439
耐寒性	°C	-35（弾性限界）、-45（凝固）	
耐候性	400時間	良好	メタルハライドランプ

※25°C50%RH×24h +5°C 1h

- 【使用時の注意】
- 被着体は、ゴミや埃を取り除き、油分等は溶剤などでふき取り十分乾燥させてください。
  - 硫黄、窒素酸化物、有機金属塩、リン化合物等を含む表面では硬化しないことがありますので、予備試験を行なってください（有機ゴム、フラックス、ワックス類、シリコンゴム等は特に注意してください）。
  - 取扱い時には、必要に応じて保護眼鏡および保護手袋等の保護用具を着用してください。
  - 換気の悪い場所では、送排気装置等を使用し換気をよくしてご使用ください。
  - 火気のある場所では使用しないでください。

## 防食施工計画例



橋梁LCC改革をリードする

### 橋端改良技術協会

〒981-3117  
宮城県仙台市泉区市名坂字野蔵19-3  
株式会社丸本工業所内  
TEL & FAX 022-371-9803 E-MAIL info@mcbm.net

インターネットの情報もご覧ください

<http://www.mcbm.net>

### 株式会社 中 綱 組

代表取締役 羽賀 義広  
〒034-0036  
青森県十和田市東六番町3-36

tel 0176-23-7175 fax 0176-23-7173  
e-mail nakatuna@cocoa.ocn.ne.jp

橋端改良技術の新提案



## 支承防食工法

# 透ける沓

NETIS登録：支承防食工法（透ける沓） TH-120011-A



橋端改良技術協会



# 透ける沓

狭隘部にある鋼製支承の塗替え防食技術です。錆を完全に除去できないような環境下でも、3種程度の素地調整で長期防食機能を保持できます。支承周辺を透明型枠で囲い込み、内部を透明弾性樹脂により充填することで腐食因子を完全に遮断します。

この透明弾性樹脂が超厚膜の弾性被覆材となり、鋼製支承の腐食進行を防止し、長期防食を可能としました。



## 特徴

### 1. 素地調整簡素化

素地調整3種程度で施工可能なため、施工性が向上します。

### 2. 施工環境に左右されない施工性

ブラスト処理を必要とせず、騒音や作業粉塵を軽減できます。大型機材を必要とせず工事制約も緩和され、産廃費を軽減できます。



### 3. 施工後の維持管理で目視確認が容易

透明弾性樹脂は長期にわたって透明性を維持するため、点検調査時における目視確認が可能です。

### 4. 支承機能を維持

優れた柔軟性を有する透明弾性樹脂で透明型枠内を充填するため、移動・回転等の支承機能を阻害しません。

## 主な用途

- 表面被覆の下地処理が確実にできない鋼製支承
- 鋼製支承のうち、線支承・板支承等の小型支承
- 耐震装置等により作業空間が取れない鋼製支承
- ブラスト作業に伴う工事制約がある鋼製支承
- 腐食を許容しない部位、部材



## 施工手順例 (鋼桁線支承)

- 1 準備工**
  - 足場架設
  - 現場踏査
  - 沓座土砂除去及び清掃
  - 周辺養生
  - 沓座・保護モルタル補修
- 2 素地調整**
  - 鋼材素地調整**  
 透明弾性樹脂充填範囲内の鋼材を3種ケレン程度で行う
  - コンクリート素地調整**  
 型枠設置範囲内のコンクリートをディスクサンダー及びタガネで清掃、目粗りする
- 3 下地処理材塗布**
  - 鋼材下地処理材塗布**  
 残存錆中に下地処理材を浸透させるように、塗りもれがないよう塗布する
  - コンクリート下地処理材塗布**  
 コンクリート表面に下地処理材を浸透させるように、塗りもれがないよう塗布する
- 4**
  - メタルタッチ処理**  
 樹脂充填ライン天端から充填部をメタルタッチ処理する
  - 透明型枠設置**  
 透明型枠を所定の寸法に加工し、設置する
  - 目止め処理**  
 型枠の取合いから樹脂が漏れないよう、目止め処理する

※コンクリート桁は不要
- 5 透明弾性樹脂充填**
  - 攪拌機を用いて所定の割合で混合し、型枠内に流し込み、硬化するまで塵、埃、水分が混入しないように養生する
- 6 仕上げ**
  - 透明弾性樹脂の硬化確認後、露出した表面に透明フィルムや透明型枠で覆い完成となる

※天端勾配の低い箇所に水抜きを設置
- 7 足場撤去**
- 8 後片付け**



## 資格者制度

資格認定試験に合格した透ける沓管理主任者及び、透ける沓作業主任者が責任ある施工を行います。こうした取り組みによって技術力の向上はもちろん、施工品質の安定化を図っています。

